

屑大豆緑肥で小麦収量・地力UP+温暖化緩和にも貢献

(独)農研機構東北農業研究センター、(独)農業環境技術研究所



休閑期に屑大豆緑肥を入れ小麦を栽培すると慣行施肥栽培と比較して同等か増収。それに加え、緑肥の鋤き込み量が増えるほど温室効果ガス削減効果あり。

※小麦作における層大豆緑肥の意義と栽培概要※



種子用大豆(左)、篩い下屑大豆(右)

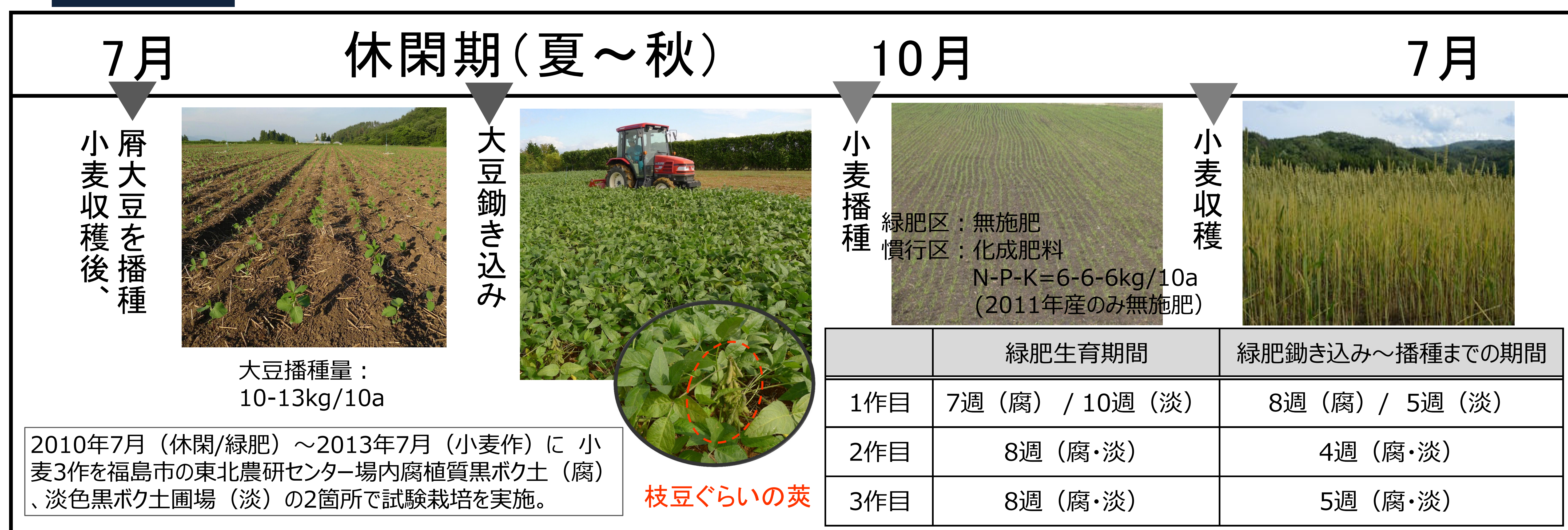
➤ 脣大豆とは？

収穫した大豆を選別するときに出る食用として流通しない大豆。
粒のサイズが極端に小さいもの、形状のいびつなもの、紫斑や褐斑等の
病害粒、虫害粒、実の詰まっていない軽いもの等が含まれる。

➤ 脣大豆で緑肥を栽培する意義

化成肥料や緑肥種子の1/20 ~ 1/10のコストで緑肥を栽培可能。
緑肥は緩行性の肥効があり、地力UPに貢献。

栽培概要



❖ 脣大豆緑肥導入による小麦の増収効果と温暖化緩和効果❖

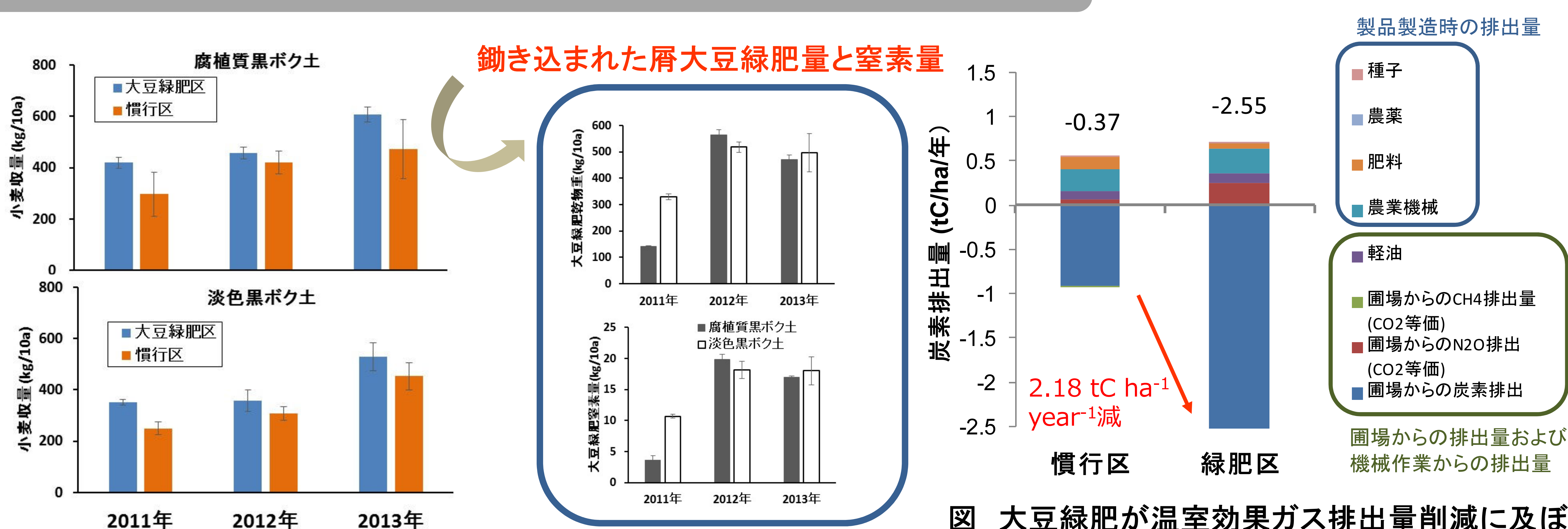


図 大豆緑肥が温室効果ガス排出量削減に及ぼす影響
(腐植質黒ボク土圃場のみのデータを表示)

屑大豆緑肥由来の窒素投入により基肥なしでも収量向上、炭素投入により2.2 tC/ha/年の温室効果ガスを排出削減可能！